

質問 町長として16年間職務を全うされた石塚前町長が勇退され、杉浦新町長が誕生した。副町長時代とは全く違う立場の町長として、今後どのような町を目指すか、次の点について問う。

問① まちづくりに対して、基本的な考えは。超少子高齢時代への対処を全ての政策の基本と捉えたうえで、安心、安全、便利・活気、地域オーダーメイド、共につくるまちの5つの目標を定め、メリハリをつけて着実に政策を進めていく。

問② 社会情勢の変化と、長期総合計画の関係は。

問③ 少子高齢化及び労働人口減少が進む中、新町長の重要施策は。待機児0対策、子育てに関する新たな組織編成、災害対応のための危機管理官の設置など。

問④ 副町長に求めるものと、職員に望むものは。

原 成兆 議員 (自民新国会)

杉浦新町長の町政運営に対する考えを問う

町長 メリハリをつけて着実に政策を進めていく



スカイホールから望む瑞穂町

町長 社会情勢や町を取り巻く環境の変化を捉え、必要な場合には施策展開の方向を別途示す。

町長 社会情勢や町を取り巻く環境の変化を捉え、必要な場合には施策展開の方向を別途示す。



森 巨 議員 (自民新国会)

新町長へ期待する町民の声にどう応えていくのか

町長 人材の発掘につなげる

質問 高齢になっても住み慣れた地域で安心して生活ができる町。若い世代が安心して働きに行けるような子育て、教育環境の整った町。買い物や通学、通勤、通院が安全で便利にできる町。これらは多くの町民の願望であり、新町長に最も期待する声であると考え、そこで、次の4点を町長に伺う。

問① 早期解決に向けて取り組む施策は。

問② 子育て世代への支援の拡充や高齢者の健康寿命の延伸、教育施設の非構造部材の耐震化などを急ぎたい。

問③ 町民との協働において解決すべき施策は。

問④ 高齢者の寝たきり防止対策、高齢者や児童生徒の見守り体制の拡充、スポーツの振興など。

問⑤ 都市基盤整備による生活環境の向上や産業集積の活性化を図り、生産年齢人口の維持に努める。また、情報発信媒体を活用し、共にまちづくりを進めていく人材の発掘につなげる。



民間団体との協働によるイベント (瑞穂武道館)



近藤 浩 議員 (改革みずほの会)

「町民ファースト」の町政運営

町長 町民のことを最初に考え優先する

質問 先日、都知事から「町民ファーストでお願いします」というメッセージが寄せられた。町長が考える「町民ファースト」とはどのようなもので、どのように展開していくのか。

また、選挙公報に「児童館事業の拡充」「図書館の再整備」とある。長年の懸案事項でもあり、これらのことをどのように進めていくのか。町長の所見を伺う。

町長 小池知事が「町民ファースト」といつているのは、組織内の論理などではなく、町民のことを最初に考え、優先して欲しいという意味であると捉えている。児童館事業の拡充に



瑞穂町図書館

については、児童館から遠い地域の子どもたちのために、移動児童館事業を更に充実させていく。図書館については、障がいのある方の利便性、ゆったりとした空間などにも注意しながら大規模改修を進めたい。機能面については改修後検討すべき事項と考える。

こんな質問もありました

基地対策について改めて伺う

町長 国に対し、基地周辺住民が置かれている実情を強く訴え、住民の安全と良好な生活環境の確保を求めていく。

村山 正利 議員 (自民新国会)

(仮称) みずほ町を支える町づくり基金条例の創設について

町長 現時点では適切でないと思う



質問 長期総合計画に基づき、平成29年度から3か年の実施計画が提示された。これによると、新庁舎建設、土地区画整理事業を始めとする6分野の施策で合計500億を超える事業費が計上され、財政を逼迫する現状にある。住民の賛同による寄付を原資に新たな「(仮称)みずほ町を支える町づくり基金」を創設することを提言するものがある。そこで次の点について、町長の所見を伺う。

問① 新たな財源確保は。

問② 緊急時に対する予算執行は。

町長 PFI、地方債発行、寄付など新たな動きはあるものの、法的・社会的制約など一長一短があり、すぐ導入というわけにはいかない。今後も新たな財源確保について行政改革の課題として取り組む。

こんな質問もありました

広域行政の課題と展望は

町長 地域包括ケアシステム構築の協議を進める。



多くの町民で賑わう残堀川イベント